

会 議 録(要点)

会 議 名	平成28年度 第2回三芳町地域公共交通会議
開 催 日 時	平成29年3月28日(火) 午前10時30開会 午前12時00分閉会
開 催 場 所	三芳町役場 3階 301会議室
主宰者氏名	三芳町長 林 伊佐雄
出席者	<p>会 長 三芳町長 林 伊佐雄 委 員 三芳町区長会長 日下部辰男 委 員 株式会社ライフバス代表取締役 照井誠 委 員 一般社団法人埼玉県乗用自動車協会専務理事 高原昭 委 員 三芳町交通審議会会長 忽滑谷徹雄 委 員 三和富士交通株式会社 埼玉営業所 所長 小林克美(代理) 委 員 関東運輸局埼玉運輸支局 総務担当 吉田知也 委 員 埼玉県川越県土整備事務所 管理担当課長 川角和嗣 委 員 埼玉県企画財務部交通政策課 交通企画・バス担当 平野由紀(代理) 委 員 三芳町社会福祉協議会 会長 篠原拓平 委 員 三芳町政策推進室長 百富由美香 委 員 三芳町道路交通課長 田中美徳 委 員 三芳町財務課長 大野佐知夫 委 員 三芳町都市計画課長 鈴木喜久次</p>
欠席者	<p>流通経済大学教授 板谷和也 一般財団法人埼玉県バス協会 専務理事 鶴岡洋 富士タクシー労働組合委員長 佐藤守 東入間警察署交通課交通規制係 大里正和 三芳町商工会会長 山田政弘 三芳町福祉課長 三室茂浩</p>
傍聴者	1名
事務局職員	<p>政策推進担当主幹 島田高志 政策推進担当 江田直也 宮腰孝信</p>
議 題	<p>1 開 会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>3 議題 ・今後の公共交通について</p> <p>4 閉会</p>

会議結果

- ・事務局より今後の公共交通について説明を行い、これに関して各委員より意見をいただいた。

配布資料

- ・会議次第
- ・今後の公共交通について
- ・資料1
- ・資料2
- ・資料3
- ・資料4

議 題 ・ 発 言 ・ 結 果

1 開会

2 町長あいさつ

3 議事 「今後の公共交通について（報告）」

【意見及び主な質問に対する回答】

<デマンド交通終了について>

- ・デマンド交通終了の周知にあたって、感覚的にはお客様の7割からは「今までありがとうございました」という意見で占められ、一部のお客様からは「辞められては困る」、「何か代替案は無いのか」という意見を電話でいただいたこともあった。
- ・デマンド交通終了についての周知チラシ等を見ておらず、終わることを知らないという方もいた。ただ、「デマンド交通があって良かった」という意見はたくさんあった。デマンド交通がなくなることによって、今までデマンド交通を利用していた方は不便にはなると思う。
- ・2年半の試行期間を経て、評判がいいと聞いていた。終了はやむを得ないと思うが、評判が良いという事であればタクシー業界としては続けていけるのではないかという期待もあったため、今回の終了は非常に残念である。バスの再編も必要だと思うが、タクシーは行きたい時に行きたいところに行けるものなので、タクシーの方も活用していただきたい。
- ・日頃より高齢者に対しての福祉事業を行っていて、高齢者との会話をする機会が多いが、やはり廃止されたら困るという意見が大変多かった。ただ、デマンド交通の終了についての覚悟であるとか周知はできていると思う。

<今後の公共交通、バス路線の再編について>

・費用対効果という言葉が出てくるが、公共交通というのはある一定レベルのサービスを提供するというのが一番であると考えている。そのような中で、今よりも人口密度が多いところを運行する方が、利用者が多くなるというのは、あくまでも予想であると感じる。駅から遠い地域はバスで移動するしか手段がないが、駅から近い地域では歩く人が多く、バス利用者数が伸びるとは考えにくい。人口密度が高い地域であるからバスに乗る人が多いというのは甘い見方である。また新路線はバスが1周するのに非常に時間がかかるように思う。そのため、サービスレベルの低下になるのではないかと。

・北永井の一部地域では鶴瀬駅よりふじみ野駅のほうが近く、ふじみ野駅方面に行きたいという住民は多くいる。

⇒現在の1番線と7番線が重複している現状で、仮に7番線がなくなった場合、確かにふじみ野方面に行きにくくはなるが、駅に行きたいという需要を重視するのであれば、1番線を使って鶴瀬駅に行くことができる。今回7番線の路線が変更になるという周知はしていかなければならないが、駅に行く需要は満たされるのではないかと町では考えている。

・費用対効果とあるが、高齢社会を迎えている中で、福祉にお金を要するのは仕方のないことではないか。行政の考え方としては弱者の方に向けていかなければならないのではないかと考えている。

⇒高齢者のために財源とのバランスをとりながら検討を進めていきたい。

・7番線は路線変更という言葉を使っているが、正確には休止・廃止である。7番線は廃止であり、新しい路線に関しては新設という言葉で周知しないと誤解を生む可能性がある。7番線は平成8年から21年走っており、住民に馴染んでいるので、この廃止についての合意形成が得られるというのが大前提である。

・先ほど事務局より乗降場調査の話が出たが、是非雨の日にも乗降者数調査を行ってほしい。7番線の乗降者数調査では、1日200名程度と出ているが、3月21日（火）の雨の日では、利用者は276名であった。7番線を廃止して1番線に乗りきれるのかという問題も発生している。また公共交通に関するアンケートで上がった弊社に関する意見として多かったのが「とにかく本数を増やしてほしい」という意見である。このような声がある中で1番線に統合することについて、矛盾している面もあるのではないかと危惧している。

・7番線の廃止に関しての合意形成はどうなっているのか。また運行本数の増加についてはどうか。

⇒運行本数の増加部分についてはすぐに対応することが難しいと考えている。

合意形成の部分に関しては、路線の変更・廃止を、地域公共交通会議を含めて広く周知していきたいと考えている。合意形成に関しては、まちづくり懇話会という町が行政区に出向いて話をさせていただく機会を活用していくとともに、それで足らなければ説明会・回覧・広

報などやれる限りの周知を尽くして、合意形成を図っていきたいと考えている。

- ・ 7 番線が廃止された場合、1 番線のみで本数を増やすことは可能なのか。
⇒ 鶴瀬西通り線が川越街道まで開通すれば、1 番線をそちらのルートに変更する。しっかりと精査はしていないが、ルートを変更することで1 便あたりの運行時間が短縮され、1 番線の運行本数を2～3 本ほど増やすことができるかのではないかと考えている。
- ・ 今回デマンド交通の成果を用いてバス路線を再編するということであるが、町内のバス再編に伴い、バス路線の変更があるならば利用者に対してしっかりと周知をしてもらえればと思う。
- ・ あと1 年でバス路線の変更をするとの説明だったが、試行まで時間が無い中で、住民の意見を聞いてもらえるのか。以前より雨の日に利用者数が多くなり、混雑のためにバスに乗れない停留所が存在する問題もある。バスの利用者・住民を第一に考えるべきであり、説明会をするなどをして柔軟に対応してほしい。
- ・ バス路線の再編の資料に関して、最初に平成30 年4 月運行開始と謳ってしまうのは良くない。目標くらいの設定にしてもらい、無理はしないでもらいたい。新しい道路が開通することに合わせて1 番線の本数を増やし、7 番線を廃止するというのをやっていくのが望ましく、路線の申請を考えると平成30 年4 月の運行は難しいのではないかと思う。

<高齢者運転免許証自主返納支援制度について>

- ・ 制度の説明になるが、75 歳以上というのがキーワードになってくる。先般の道路交通法の改正に伴い、75 歳以上の方に認知症の検査を義務づけるなどの変化があり、これに合わせる形で町でも年齢設定を行い、今回の施策に至った。
- ・ 返納者の算定が150 名あるが、この根拠を教えてください。
⇒ 東入間警察署で過去の三芳町の免許証の返納者の推移を伺い、高齢者も増えているため若干多めに150 名という算定をさせていただいた。
- ・ 補助内容の中で鉄道費用があるのはなぜか。基本はバスではないのか。
⇒ 免許証を返納し、バスの本数の少ない中で、駅に行ってそこからさらに川越医療センターや都内の病院に通う住民も多くなるであろうことを想定して、その移動を支援するということから鉄道に対しての費用も補助をすることとした。
- ・ バスやタクシーが補助の主体だと思っていたのだが、IC カードへの入金はどういった理由なのか。
⇒ 町内にも一部西武バスや東武バスが走っている地域があり、西武バスや東武バスの走っている地域で IC カードが利用できるの、そちらで利用いただくことも考えている。

- ・すでに新聞などで取り上げられているが、平成29年度より行田市では免許自主返納者に対してタクシーの初乗り運賃に対しての利用券24枚を毎年交付することとしている。そして、これに加えて高齢者に対して次年度からはタクシーの補助が出るとのことである。

4 閉会